

評価委員会総合評価

研究課題名：全天カメラによる雲の地上観測システムの開発

評価委員

委員長：小泉 耕

委員：石井雅男、永戸久喜、牛田信吾、山中吾郎、山田雄二、瀬古 弘、
清野直子、須田一人、干場充之、吉田康弘、加藤輝之、川添安之

評価年月日：令和4年1月26日

1. 総合評価

- 非常に優れた研究であった。
- 優れた研究であった。
- 研究を実施した意義はあった。
- 失敗であった。

2. 総合所見

全天カメラからの情報を余すところなく有効活用すべく様々な検討・調査を行ったほか、全天カメラの画像をシステム上で共有することで、効率的な研究環境を構築し、複数の雲プロダクトを開発したことは評価できる。また、新しい観測技術の提案という点で新規性もあり優れている。アンケート調査などについて管内官署との有意義な連携があった他、得られた成果を管区研究会等で発表している点も評価できる。

以上のことから、本研究は、適切な目標設定と研究体制のもとに実施され、想定通りの成果が得られた優れた研究であったと評価する。

一方、気象研の担当者が主体となった研究であって、共同研究の1つの目的である地方の担当者の技術力向上にはあまりつながらなかったのではないかと懸念される。

なお、今後の成果の活用にあたっては、以下に留意して、取り組んで欲しい。

- ・衛星データを用いたプロダクトの高度化や、数値予報資料も利用して、十種雲形の判定にもトライしてほしい。
- ・研究を進められて、現業化されることを期待する。
- ・昼夜対応全天カメラの活用、地方共同だけでなく、他機関との研究への活用など今後の発展も期待したい。
- ・AIによる画像判別の導入などによって、実用化に向けた更なる高精度化を期待する。
- ・目視観測の代替にとどまらず新しい活用法も見出してほしい。